

平成 30 年度第 3 回湖南省環境審議会 議事要旨

日 時	:平成 31 年 3 月 29 日(金) 15:00～16:20
開催場所	: 湖南省共同福祉施設 1 階大会議室
出席委員	: 鈴木委員、野呂委員、藤井委員、池田委員、及川委員、足立委員、 吉川委員、高畑委員、上西(保)委員、上西(富)委員、北村委員 (11 名)
欠席委員	: 成瀬委員、船越委員、明石委員 (3 名)
事務局	: 谷口副市長、萩原総務部長、加藤総務部管理監、坂田生活環境課長、 安田主幹、堀田主査、中井主事 (生活環境課) (7 名)

1. 開会 (司会：総務部生活環境課長)

(1) あいさつ

- ・ 谷口副市長あいさつ
- ・ 鈴木会長あいさつ

2. 議事 (議長：鈴木会長)

「湖南省環境審議会規則第 3 条 2 項に基づき本日の出席委員は 14 名の内出席は 11 名であり過半数以上の出席があり本日の審議会が成立している」と事務局から報告。
湖南省環境審議会規則第 3 条に基づき会長が議長となり、議題の審議に移る。

(1) 報告事項

- ・ 生活環境課より資料 1 湖南省環境基本計画について説明

審議会委員意見	事務局
<p>会長：環境基本計画と重点プロジェクトの説明だが、重点プロジェクト以外の部分の説明に対して、ご指摘、ご意見を願いたい。</p> <p>委員：10 年前と、この 10 年後と全く社会状況も温暖化の状況も違う中、10 年前と同じトーンに見えるところがある。1 ページの第 3 段落の社会的な背景が大きく変化している、また地球温暖化の状況を含め、危機的な状況にあることを踏まえ、市民の取り組み、企業の取り組みにしないと、間に合わないというような状況にあるのではないかという認識だ。</p> <p>低炭素と脱炭素という言葉があるが、国際</p>	

的、全国的な会議でも低炭素ではなく、脱炭素というのを上げていこうとなっている。例えば本日の資料の中にも脱炭素でいこうという形になっている。今の事務局の説明は低炭素なので、これは1年ごとの見直しであるとか、5年後に大きな見直しをする中で入れていくのか、その辺りは任せるが、脱炭素というほうがいいのではないか。

SDG s の扱いだが、取り上げ方そのものが持続可能な社会をはるかに超えて、グローバル経済であったり、それから国際的な経済発展の中でこの指標を議論するのではなく、本当は維持可能な社会、持続可能な地球が全体になって、この SDG s を掲げた。しかし、日本の色々見ていると、今の現状があるものとして、その中でこの SDG s の目標を立てている気もする。その取り上げ方も少し慎重でなければいけないのかと思う。

細部も化学物質の問題があって、この物言いでもいいのか。今日でまとめるという段階になって最後のところまで入っていけないので、あえて、見直しのところに出していこうかと思う。

危機管理の部分はきっちり書き込んだほうがよいと思う。

会長：今の意見について、事務局より説明願う。

計画の基本的事項、計画策定の背景と目的の部分だが、本計画の改定までの10年間の間に地球環境、生活環境が変わってきたというところで改定に入っていくといったことが書かれており、委員の意見のとおり、地球温暖化の部分、一部触れているところはあるが、内容、本文の中でも地球温暖化といった部分については深く関わっていく部分になると思う、1ページについて書き方について工夫しながら市民さん

会長：低炭素よりも脱炭素という意見があるがそのあたりの考えはどうか。

会長：SDG s については、どのように考えているか。

委員：この意見については難しいので後日でも構わない。

会長：SDG s を盛り込むというのは、委員からの意見もあり整理し、計画に入れたらどうだということであった。

委員：議事録を拝見した。

会長：SDG s については引き続き検討をお願いしたい。A 3 の資料はダイジェスト版という意味か。

会長：A 3 版の横書きの資料のことだ。

会長：A 3 資料の基本目標の下に SDG s の目標が入っているが本冊には入らないのか。

にもわかりやすく、地球温暖化についても問題を提唱できるような書き方に工夫をしようと思う。

地球温暖化に関する計画、本市のプラン、プロジェクトの部分について、一部脱炭素というような使い方をしているところがあり、審議いただいている湖南省環境基本計画では、まず市民の皆様にもわかりやすい言葉という部分で、低炭素という言葉を使わせていただいている。しかしながら、他の計画であるとか世界的な状況も踏まえながら脱炭素という言葉の使い方については検討していく。

はい。

2 枚の資料をとめてあるものだが、本編を集約した資料となる。これまでの経過、策定、までの経過について集約したもの。アンケートの概要、計画策定における参考資料となっている。

本編では 14、15 ページに SDG s に関する説明と 15 ページには本環境基本計画の目標との関連、また 18 ページ以降、それぞれの基本目標に関連深い SDG s の目標アイコンを示している。

本日、欠席の委員からの意見を説明する。

まず、それぞれの基本計画のそれぞれの取り組

み、環境配慮指針と呼ばれる 18 ページ以降の市の具体的な取り組み、また市民の具体的な取り組み、事業者の具体的な取り組み、それぞれが取り組むべき内容は書かれている。その中で基本目標 4、低炭素循環型のまち、30 ページ以降に市の具体的な取り組みが書かれているが、そちらに滋賀県が取り組んでいる地球温暖化対策推進センターとの連携がある。出前講座、うちエコ診断、などに対する業務の協力をしている。そういった活動について取り組みを触れてはどうかということで、市の具体的な取り組みの中での照会であったり、また市民が参加できる取り組みという部分でその配慮指針の中にその意見を盛り込みたいという意見を参考にしたいと思う。基本目標全てにおいてだが、それぞれに指標というものがあげられている。これについては、以前からインジケータという形で計画の進捗状況をはかる指標が必要ではないかと意見をいただいている。この表についてはそれぞれに書かれた目標がどれほど達成しているか、目指した社会がどこまで到達しているかを見る必要があるという意見をいただいている。そういったこともあり、例えば基本目標 4、32 ページの目標、指標の中では一人 1 日当たりのごみの排出量、具体的に数字においてどのように変わったかを指標としてあげている。

また本計画の改定については市民からのアンケート結果がどのように変わって、どのような市民の意識が変わったのか、そういったことを図るためにも、基本目標のなかの指標の中には、それぞれアンケートの結果に基づいた指標をあげさせていただいている。委員からの意見は以上だ。

委員：今の意見に対してだが、委員から県の取り組みをエネルギーのところでは付記してはどうか、プラスしたらどうかという話があるが、そうすると県域でエネルギーに関してはすごく沢山の N P O がさまざまな取り組みを

している。県の施策がそこに取り込まれ、のせている。湖南省は自然エネルギーでは県内のトップだが様々な取り組みがNPOにあると思うがそのバランスを欠くのではないか。

会長：先ほどの話だと具体的に、今のエネルギーだと 30、31 ページに市の具体的な取り組みをいれるということになるのか。

委員：県で、こうだということは、NPOにも、たくさんある。

会長：28、29 ページ辺りに文書を入れるといいと思ったが。

委員：総論に入れるのがいいと思う。

会長：目標に対する指標は修正されているか。

会長：目標値、現況値が全く一緒だが、これでよいのか。

会長：了解した。重点プロジェクトは数値目標はないのかという議論が出ると思うが、今回のまとめとしては、基本目標をあげ、目標値というか、その指標を上げるよう整理してきたと理解している。

副会長：脱炭素社会を作るという理想はあるが、実施すると市民社会が成り立たない。脱炭素社会を目指す現状は低炭素循環型社会

県内のあらゆる活動、NPOと連携をしないわけではないが、全ての取り組みを把握、網羅しながらこの計画に盛り込むということは難しいが、本計画においては、県の環境基本計画や、つながりも一部、本編の総論の中でも書かれていることから、県の取り組む温暖化防止活動推進センターの取り組みについても、書ければと思う。またその活動も市と連携し、市の取り組みの中でセンターの取り組みを活用できたらと思う。盛り込み方については検討したい。

前回是一部空白の部分もあったが、現況値、目標値とも記載した。

減りそうな数字だが、減らしてはいけないが増やすこともできないので、現状維持できればいいということで、この数値とさせていただいた。

をつくっていくという原案でよいと思う。

委員：2019年からこれを動かし、5年ごとに見直しをするという中で、同じ数値が書いてあり、よくわからないと思った。この評価が何か、目標はこうだが、結果はこうだったなど、よくわかるような評価を5年後にする。将来、しなければならないことを書いてほしい。

会長：3ページには施策や目標の進捗についての点検は5年でじっくりやると思うが、毎年と思ってよいのか。

委員：点検を毎年するのなら、評価を入れるとよい。

委員：国も評価を入れていくことになっている。

会長：3ページの施策や目標の進捗についての点検を毎年行うということでよいか。

委員：そのとおりである。

会長：今出た意見を踏まえ検討されたい。

会長：事務局で検討できるところは検討し修正を加えることとする。また、重点プロジェクトについて意見を出してほしい。指標があって、数値目標が出て、重点プロジェクトを3つに絞っており、前回と比べすっきりしていてよい。数値目標はないがそれでよいか。

本計画の進捗、取り組み状況については、この審議会の中で報告をすることになっている。数値指標、計画がどれほど進んでいるか、社会の変化を見るための指標であり、この目標値のうち年度ごとにわかるものであれば年度毎の報告の中で評価という形で報告、審議できたらと考える。ただ、アンケートを毎年するというのは難しい。指標のうち、測定できるものは審議会の中で、取り組みの報告と併せて評価の指標の報告となると思う。

本計画ですが、前回の計画の中では重点プロジェクトを11あげ、その11の進捗状況をそれぞれ評価していた。しかし、その計画プロジェクト自身の進捗を評価するのではなく、あくまで

指標を評価する、目標値、ごみがどれだけ排出量が減った、そういったものを指標、目標値として、それを評価することで今回は作った。その目標とする指標を達成するための取り組み、特に取り組んでいくものを重点プロジェクトとして3つあげている。また本編 39 ページは、それぞれの基本目標と重点プロジェクトがどれほどの関連性があるプロジェクトなのかということを書いており、重点プロジェクトの達成度をはかるのではなく、プロジェクトをすることで指標、また目標としている社会がどのように変わったかをはかるようなもので評価をしていく、という計画である。

追加だが、評価の中で数値目標、数値評価がどのように変わったかというところは、報告と評価をするが、計画の取り組み状況や、その内容については、毎年度、審議会の中でも報告する。重点プロジェクトの取り組みについても同じである。

会長：他に何か意見があればお願いしたい。

委員：重点プロジェクトだが、これで市民は本当にやるぞという気が起きるか。非常に緩やかだが。例えば 45 ページの再生可能エネルギーのところの市民の具体的な取り組みがあるが、キャッチコピーに見える。災害時に備え太陽光発電などの再生可能エネルギー導入を検討しよう、市民共同発電所との協力を検討しよう、低炭素エネルギーの利用を検討しよう、石鹼、バイオ燃料など廃食油回収に協力しよう、これだけで重点プロジェクトになる。本当に今、大変な状況だということがないと、語り手のボランティアにしても、その言葉に力が入らないし、本当の行動に結びついていかない。ただ、この文言を全部変えることは大変だから言わないが、重点プロジェクトのところも、今までの 10 年よりもっと腰を据えて動かなければいけないところに来ていることが、本当に市民に伝わるか気がかりだ。重点プロジェクトも 3 本ある。

会長：文言の表記の変更はできないのか。
会長：できないので、文末をそろえた。また、市民の具体的な取り組みについては、「何々しましょう」とし、市の取り組みは「何々します」と揃えた。そのように整理したと思う。

副会長：文字の表現よりも市民に直接啓発していくというか、各区、まちづくりセンターなどで、することを具体的に問題を取り上げ啓発活動することだと思う。表現をいくら変えても実際的な啓発活動がなければ意味はない。市民の意識を高めていくことが必要だ。
会長：今の重点プロジェクトになり弱いという意見が出ているが、それに関連してもよいし、それ以外の重点プロジェクトに対する意見、質問があればお願いしたい。

副会長：「しましょう」より、「していきます」。という表現がよいのではないか。

会長：ただ表現としては方針のところには、そういうふうにしますと、書いてある。それは市と市民と事業所を分けて整理したというのはいかがか。

委員：これでよいのではないか。

会長：この資料は、実際に市民の積極的な取り組みを促すということではないか。重点プロジェクトの中で市民の自主的な参加ということは、どれかに当てはまっていることかと思った。

43 ページだがドギーバッグ、交換銀行という表現は定着しているのか。ネットで見ると意味

今の、提案だが、審議頂きたいテーマである湖南省の 10 年後の将来の環境状況を踏まえ、市民に何をしてもらいたいのか、どのような取り組みならできるか事業所も同じだ。湖南省が考える 10 年後の環境に近づけるのかというアイデアを頂きたい。この問題については会長のご意見のように、「何々しましょう」という形に揃えた。その表現が甘いのか、市民が動けるものかについて、アドバイス、ご意見をいただきたい。

はすぐ分かったが。

会長：用語集で対応してもらえるのか。

会長：犬の餌として持ち帰る意味ではない。

会長：全く知らなかった。

委員：海外では当たり前となっている。

委員：海外では必ず持っていく。日本では病気が起きてはいけなから持ち帰りは困るということだが、海外は基本的に持ち帰る。

会長：48 ページZ E HはZ E BだがHが正しいのではないか。

副会長：48 ページの「検討しましょう」という文末は弱い感じがする。

会長：スタイルとしては検討しましょうという文末スタイルになる。

副会長：もう少し押すことはできないのか。

会長：しかし、今回はそういうスタイルで整理したということである。

副会長：検討ではちょっと弱いスタイルではないか。

委員：協力という表現はどうか。全体のトーンが市の施策があり、それを市民と事業者が協力し検討しとなっているが、市の施策と、市民がイニシアチブをとって取り組むことと、事業者が取り組むことは対等にしたほうがよい。市民は市の行政を越えてやっている施策もある。市がこれをやるから、市民はそこへ向けて活動する、行政も事業者も同じだ。本当にこれでよいのかと思い質問をした。市が決意し、市民は協力するというように見えるが、これは市民のイニシアチブを、また事業者はとて進んでやっている、はるかに行政の施策を超えてやっているところがある。だから本当にこの置き方でいいのかという根本的な思いがあったので申し上げた。

ドギーバッグ以外にも、たくさんわからない言葉があると前回も指摘頂いている。

それで対応する。ドギーバッグは外出時の持ち帰りパックである。

私たちが食べるための持ち帰りパックを意味する。

会長：その件については、まとまっている。
委員：まとめられている。
会長：細かいことだが、促進します、推進しますというのが重点プロジェクト2で出ているが45、47ページにも同じ表現があるのではないか。
副会長：弱いと思う。
委員：第5章の計画の推進だがこの書き方だと、行政があつて中に市民、事業者、市民団体、学術機関は行政とは離れている。それは下のところで行政が支援して情報提供するという形になっている。
委員：支援と情報が同じはおかしいと思う。そこがおかしい。
委員：環境審議会はこれでよいがつながりがもう少し必要だと思う。環境基本条例の第3番目に環境自治がある。その関連で、環境自治は市民と事業者、行政が一体となつてということが書いてある。現実には難しいと思うが。そのあたりを現実的には行政が引っ張らないとついてこないと思う。引っ張り込むような組織に工夫できないか。
会長：54ページの図を工夫するということか。
委員：図の工夫は難しいと思う。
委員：54ページの図だが表現の仕方が難しいと思う。
委員：図を具体的にどうすればいと言われるとわからないが。
会長：図は市が支援、情報提供を事業者、市民団体、学術機関、逆に参加、協力となっている。
委員：市民というのはまちづくりセンターをさしている。
会長：そのあたりの確認をお願いしたい。
委員：市民を引き込んでいるのはまちづくりセンターになるのか。
会長：まちづくりセンターはまちづくり協議会のことになるのか。
委員：そのあたりの団体も含め全体的に確認

をお願いしたい。

会長：重点プロジェクトだが、市民の具体的な取り組み、取り組みにもレベルもあるが、市民個人個人での意味だと思う。

委員：ただ、全体の市民に同じようにできるかと言ったらできない、何かの組織を使わないと周知できない。その周知をするのがまちづくりセンター、自治会になる。

会長：自治会になると思う。

委員：我々のところだと区になる。

副会長：周知できる組織が少ないと思う。

副会長：区で直接的にこれをテーマにし、そして話し合う機会を積極的に作ってはどうか。そのような会議だとみなさん意欲的に話をされる。

委員：無関心な人もいるが、関心のある人も、結構いる。

副会長：今までは、そのような機会はなかったように思う。積極的に市民の意見を吸収するような、また市の意見を述べたりするような機会を作っていくことが必要だ。そういう意味では先ほどの何々を検討しましょうというのは弱い。むしろそういう活動をしていこうと言うことだ。

委員：施策を行政が全部背負うことなのかという疑問がある。行政施策は市民、事業者と一緒に作っていくものだ。この図だと行政施策を決めた、この施策に市民と事業者は協力しよう検討しよう何々しようという形になっている。例えば、市が廃食油を集める、市民は集めることに協力する。これを全部行政がやるというのはしんどい、本当はそういう形ではない。市全体の自治を作っていくことを理解し、そしてこのまちの議論に参加してきた。そして全市民が協力したらいいとなったとき、地球温暖化が進む中、残っていけると思う。

会長：湖南市環境ネットワークがある意味受け皿のような位置づけに見えるが。

委員：湖南省の環境ネットワークは、こんなに 1 つの枠に入るほど実力あるところなのか。

会長：54、55 ページは図の書き方も含め大切だ。事務局の考え方はどうか。

会長：54 ページの矢印に書いてある表現自体を引き取らせてもらうというこか。どのように検討するか、いわゆる市民の自主性ができるようにという話だと思う。促進と推進は要するに区別して使い分けるという理解でよいか。促進と言えば市だけじゃなく市ともう 1 つが一緒という意味合いがある。

54 ページの計画の推進というページの連携の在り方だが、会長からも意見があった推進と促進といった言葉の使い方にも関係があるが、促進というところで他の主体も活動を促しながら一緒に参加して活動するというような意味合いも含め推進、または促進というような書き方をしているところはある。言葉の使い方でもわかりにくければ、書き方の工夫をしようと思うが、市だけでなく、ほかの主体となる関係になるところについても主体的にさせていただくような仕組み作りが大事だと思う。この計画の推進体制の中で、特に何か形があって湖南省環境ネットワークというものをしているものではないが、例えば先ほど委員からもあったように、既存の団体だ。自治会、区、湖南省は区と呼んでいるが、その広域であるまちづくり協議会、市民団体、NPO そのあたりも関係あると思うが、そこと湖南省との関係で、支援、情報提供、また連携、審議、提言といった書き方をさせていただいているが連携の書き方、市も取り組む、またほかの団体も、共に協力いただきたいというふうな計画となっている、この書き方では、どういった風になるのか関わり方がちょっと分かりにくいと思うので、工夫をしたい。

他の主体になるところにも促しながら、共にやるという意味で「促進」というのを使っている

委員：55 ページにもある湖南省環境ネットワークのところ、ネットワークは市民、事業者、市民団体があって、連携して環境保全に向けた実践的な取り組みを企画実施する中に市も入っている。このイメージが皆さんの中でつかみきれない。また、実態がある組織ではない。

会長：イメージ的にすごいものがある感じがする。

委員：これがまさに自治を作っていくかと思うが、ここに行政が入ると、ますます見えにくくなる。大切なので54、55 ページは練ってほしい。

会長：そのとおりだ。

委員：湖南省環境ネットワークも行政も入ってという図はわかりにくい。

委員：どちらにも市が入っている。

副会長：48 ページだが、市民、事業者の取り組みの表現も変えたほうが良いと思う。検討しましょうなどに。非常にゆるいと思う。47 ページではきちっと書かれているが48 ページになると弱い、検討しましょうじゃない、検討ではだめだ。やはり推進しないとイケない。そのあたりの表現、特に48 ページを考えてほしい。

会長：事務局で検討願いたい。重点プロジェクトは指摘が出ているので事務局で検討していただきたい。修正後を確認する時間はあるか。また、今後のスケジュールも説明願いたい。

が、確かに54 ページの体制の中では見えにくいので工夫がいると思う。

54 ページの図は市と湖南省環境ネットワークという形で別で表記されている。

54、55 ページのイメージで湖南省のが見せたいイメージの整合性というのも図りたいと思う。

策定フローに簡単ではあるが今後のスケジュールが載っている。本日が今年度最終の審議会、その後環境基本計画調整委員会、環境保全協議会に意見照会、産業経済常任委員会に諮っ

会長：この審議会はこの3月で任期が終わる。

会長：引き続きということになると思うが、委員としては任期が切れて新しい任期となる。

会長：今後のスケジュールは時間的にはタイトだが、環境保全協議会、環境審議会、パブコメの実施。9月の審議会承認となると、そこから第二次がスタートするというスケジュールになる。重点プロジェクトの54、55ページの表現については事務局で検討頂き庁内照会もしていただきたい。

先ほどこの審議会とは別に委員会があったが、環境基本計画調整委員会というものでいか。

委員：環境担当課以外にも協力ということか。

会長：大変な作業だがお願いしたい。他の意見もお願いしたい。

委員：具体的な意見ではないが、環境対策をするに当たっては地域が好き、近くにいる人に配慮するなどが一番大事だと思う。そういう意味で重点プロジェクトの3番目のこなん

ていく。その後平成31年度第1回環境審議会、庁内会議、全員協議会、パブリックコメント、9月に湖南市議会に上程をする予定である。

2年任期なので任期は終わる。

審議会の委員の任期は2年ごとになっている。また委嘱という形で引き続きお願いしたい。中には所属団体からの推薦の方もおられ、4月をお願いする。また、この環境審議会のあと庁内の連絡会議、環境保全協議会という環境団体の集合、組織というものがあるので意見照会などを経て、5月上旬から中旬に今年度1回目の環境審議会ですれぞれから出た意見を集約し審議会提示していきたい。これまでの計画の中で平成30年度に、審議頂いているところであり、引き続き委員の皆様にご審議頂きたい。

その委員会は市役所の中の部長級で構成、副市長がトップとなっている。

いろいろな課に協力してもらっている。

の魅力発見プロジェクトは、根本的なことをやるところなので一番大事だと思う。そういう意味で今回このプロジェクトと目標との関係をつくられたというのはいいアイデアと思ったが湖南の魅力と環境とを結びつけて書いてある方針の部分というのは非常にわかるが、ここまで環境にこだわらなくても、たくさんあると思う、そこをつなげることがここに含まれるともっと膨らんでいくのではないか。無理やり環境のことだけを書かれているように思った。

会長：事務局で検討を。環境というか、基本目標1を絡ませるか。もっと素晴らしい自然体もある。

委員：地域を好きになろうということが入ってもいいのではないか。

会長：その点を盛り込む方向で検討願いたい。

会長：事務局で修正、取りまとめをお願いしたい。

重点プロジェクト3の湖南の湖南の魅力発見・発信プロジェクトということで、ツーリズムというような書き方で地域資源を活かしたツーリズム、こちらについては、市民や来訪者が湖南市の魅力を知るという形で、またツーリズムを通して湖南市を知っていただくというようなプロジェクトを表示している。地域資源を活かしたというところで、特に環境に関するようなところを抜き出しこのプロジェクトというふうになっている。来訪者はもちろん、市民の方が地域を好きになっていく地域を知っていただくようなプロジェクトになるよう、またこのプロジェクト、ツーリズムの中身についても検討させていただきたい。

3. 閉会

野呂副会長あいさつ